

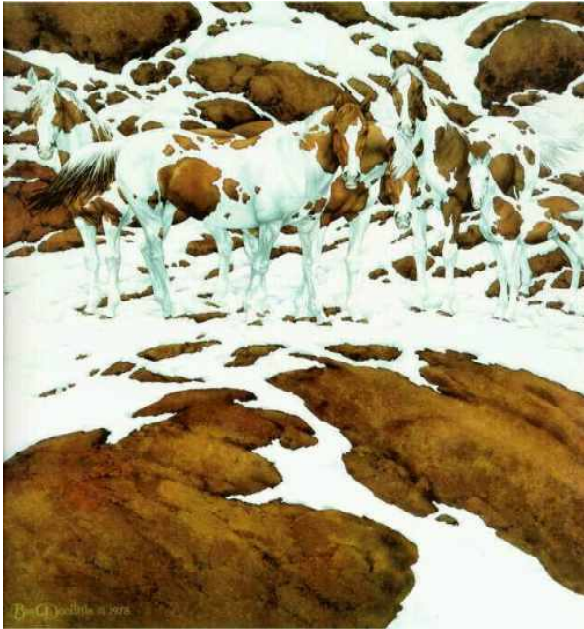
見方を変えて

一年八組 地崎滉平

自分ではaだと思っていたものを、人からbだと指摘され、自分の間違いに気づくということはいくらもある。

左の絵は、雪が溶けた山の絵に見えるだろう。この中に、何か別のものがあるのが分かるだろうか。目を近づけてみよう。すると、山の絵から馬が何頭もいる絵に変わってしまった。

このようなことは、絵に限ったことではない。遠くから見るとぶち模様の木だが、近づいて見ると人の顔のような模様の木だったりすることもある。



この図の場合はどうだろうか。四角い形を五つ見てとることができよう。しかし、この図の中にアルファベットがあるのが分かるだろうか。中心にある五つの四角い形の間をよく見ると、「L

・I・F・E」で、ライフという文字を読み取ることができる。

このように、四角い形を中心に見ているときは、黒い部分は背景になってしまう。ところが逆に、黒い部分を中心に見ているときは、四角い五つの形などは背景になってしまう。

このようなことは、日常でもよくある。例えば、テレビのCMを見ているとしよう。そのCMに、自分の好きな芸能人が出ていたら、商品などは背景になってしまう。

ところが逆に、その商品がとてもユニークだったりしたら、そのCMに出ている芸能人などは背景になってしまう。

このように、物を見る距離や、中心に見るものを変えることによって、そのものの他の面に気づき、新たな発見や驚きを経験することができよう。

